

様 式 F - 7 - 2

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 挑戦的萌芽研究 4. 補助事業期間 平成26年度～平成27年度
5. 課題番号 

2	6	5	6	0	0	2	8
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 僧院における統制されたライフスタイルが少年僧の発育発達に及ぼす影響

## 7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
5 0 1 1 4 0 4 6	オオサワ セイジ	人間生活文化研究所	所長
	大澤 清二		

## 8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
4 0 5 7 9 1 8 2	タカハシ スミコ	人間生活文化研究所	助手
	高橋 寿美子		
6 0 3 2 2 4 3 4	シモダ アツコ	人間生活文化研究所	助手
	下田 敦子		

## 9. 研究実績の概要

4月：前年の調査結果を評価し、PDCAの観点から改善すべき研究全体にわたる問題点の修正プランを立てた。前年同様に身長と体重測定を継続（毎月）。5月：暫定的な1次集計結果をまとめて現地で報告し、僧院、家族に対しても説明した。6月から7月：1次集計結果のグラフ化と解析を続けた。8月：前年同様にA）形態計測、B）栄養状態、C）生活スキル17項目、微細筋運動スキル28項目、粗大筋運動スキル15項目、E）食、衣行動項目の測定・調査、及び現地医師の診察と保健調査にて健康状態を評価した。9月：D）性成熟、運動能力、体力項目の調査・測定を行った。ここで健康上の問題がある少年僧に対して個別に助言し指導した。10月：研究対象僧院の高僧（教育担当）に対してこれまでの調査結果と分析結果を報告するとともに、今年後の調査計画について確認・協議した。11月：2年目のデータ全体の整理と確認作業（不明箇所の追試、再調査を含む）を現地研究協力者らが僧院にて実施し、これらデータを入力、クリーニングし、同データの解析を開始した。12月：2次解析結果を現地で協議。1月：日本においては上記の確認作業が済んだデータを含む「原調査票」の整理を行ってこれを厳重に保管し、タイ語文字記入内容の再度のチェック（不明があれば現地に問い合わせる）とともに、これまで自由記述方式による回答内容の翻訳（タイ語から日本語へ）を行い、数量化し、コンピューターへの入力作業を行い、最終のデータセットを完成させた。2月：A）C）については最終回の調査、測定をして、これらデータを追加し、日本側研究者らがこれまでに検討してきた調査項目別の解析方法に基づき、報告書の完成に向けた解析を行った。3月は研究成果物の冊子「タイの僧院における少年僧の生活と身体活動」を作成した。

## 10. キーワード

- (1) 身体発育 (2) 身体発達 (3) 僧院の生活 (4) グロスモータースキル  
 (5) ファインモータースキル (6) 生活スキル (7) (8)

（注）・印刷に当たっては、A4判（縦長）・両面印刷すること。

（1 / 4）